2024 年度上智大学神学講座

No.	講座名	講座の概要
1	主の祈りの解釈の歴史	二千年前にイエス・キリストが弟子たちに伝えた「主の祈り」の前半部分は「神のおもい」を描く。後半部分は「人間のすくい」を集約する。まず第一に神に信頼して万事をゆだね、次に共同で生活に必要なことを願う祈りの姿勢の重要性が浮かび上がる。つまり慈愛深い神を最優先することが人間のすくいを決定づける。構造についてだが、「神のおもい」は三点で構成される（御名の尊崇／御国の待望／御心への賛同）。そして「人間のすくい」は四点で示される（私たちの日ごとの糧／私たちのゆるし／私たちの誘惑回避／悪からの解放）。こうした「祈りの姿勢」や「祈りの構造」をめぐってキリスト者の二千年に渡る解釈の歴史をながめよう。
2	アシジの聖フランシスコの霊性に学ぶ	アシジの聖フランシスコは、カトリックの聖人たちの中でも多くの人々に愛され、その霊性は多くの人々に影響を与えてきた。教皇フランシスコも、教皇名を彼から取ったばかりではなく、『ラウダート・シ』や『兄弟の皆さん(フラテッリ・トゥッティ)』などの発布された回勅の多くは、彼の霊性にインスピレーションを受けたものが多い。本講座では、2026 年に帰天 800 年を迎えるこの聖人の人生をたどりながらその霊性の特徴を明らかにするとともに、その現代的意味を探ってみたい。
3	旧約聖書概説	旧約聖書（ヘブライ語聖書）は 39 のさまざまな書物からなる集合体です。それは、歴史の中で働く神と、それを経験したイスラエルの民とのかかわりを物語る壮大なドラマだと言えます。本講座は、旧約聖書への入門として、旧約聖書の主要なテクストのいくつかを取り上げながら、その内容、歴史的背景、物語としての文学的手法、神学的思想などを概説することを目指します。創世記、出エジプト記、サムエル記、アモス書、エレミヤ書、詩編、ヨブ記から抜粋したテクストを読むことを予定しています。
4	キリストの教会：人類一致への夢と希望	分裂や戦争がはびこるこの冷たい世界にあって、教会がどのような意味で「神との親密な交わりと全人類一致のしるし」として奉仕できるのかを共に考えていく。その中で、イエスが夢みた「神を父として仰ぐ全人類の兄弟的な一致」をキリスト教教会がどのように実現しようとして来たのかを、聖書と歴史および神学の発展から見ていく。またこの人類一致という夢の具体例として、エキュメニズム（教会一致運動）や諸宗教間対話の試み、そしてシノダリティ（共に歩む教会のあり方）および教会の模範としての聖母マリアの姿なども見ていく。 参考書：『聖書』（旧約聖書と新約聖書）を持っていると、授業で引用する聖書箇所を受講者が各自で熟読することができる。
5	宗教科教育法 24-1　「特別の教科　道徳」と宗教科	カトリック・ミッションスクールの「宗教」の授業に必要な知識と技法を学び、適切な授業を行う実践力を養うことを目的とする。特に道徳教育の教科化、学習指導要領の改訂に伴う学習観の変化と宗教の授業の関係に着目する。講義に加えて祈り、グループワーク、模擬授業を行う。参加者全員で対話し、より良い宗教の授業を探求する場としたい。主な内容は、①道徳の教科化に応答する宗教の授業、②カリキュラムと評価：コンピテンシーと評価からの単元設計。観点別の評価を踏まえたカリキュラムデザイン。③授業の構成：導入とまとめ。④聖書：聖書をどのように生徒に伝えるか。⑤教材の活用とアクティブラーニング：哲学対話、ICT の活用。⑥授業作成と模擬授業＋相互検討会など。 持ち物：ハサミ、のり、色鉛筆

6	宗教科教育法 24-2	本講義では、カトリック系のミッションスクールにおける「宗教科」の教育の歴史的背景を学び、授業の構成の仕方の基礎を学ぶことに焦点を当てる。そのために、主に次の 3 点を扱う。①現代社会 における宗教科の教育の射程と問題意識を検討すること。②キリスト教と教育の関係性を歴史的文 脈において考察するとき、「宗教科」教育がどのように位置づけられるのかを検討すること。③現 代のカトリック学校において用いられる基礎的な方法論と資料等を検討すること。
7	トマス・アクィナスにおける永遠の学びとしての神学	トマス・アクィナス（1225 年頃-1274 年）の主著『神学大全』はゴシックの大聖堂にも例えられ、壮大な完結した体系のようにイメージされがちである。しかしながら、同書は実際に未完に終わっているというだけではなく、人間にとって「世の終わり」まで「知られざるもの」にとどまる神についての終わることのない永遠の学びの姿を示すものである。神の啓示のみに基づく啓示神学でも、人間の理性のみによって遂行される自然神学でもなく、聖書の言葉と人間の英知の言葉を結集し、問いと答えの「対話的運動（ディアレクティーク）」を通して理性的に考究するトマスの神学は、「神なき」時代においても、私たちがいかに神について学びうるかを教えている。
8	聖書から読み解く、初代教会の多様性―教会におけるカリスマと制度	本講座では、新約聖書諸文書から読み取れる起源１世紀の最後の３分の１の時期、準使徒時代とも呼ばれる時期の初期キリスト教共同体の置かれた様々な状況、その背景と神学的特徴について学ぶ。初代教会からすでに教会のあり方（教会論）は一面的なものではなく、それぞれ使徒的伝承に基づいていたものの、人種、文化、地理的背景などの影響から多種多様な様相をもっていたことを理解してもらいたい。こうした最初期から存在した多様な教会のありかたとその歴史的変遷を、新約聖書の諸文書を読み解くことで理解し、現代にいきる各教会共同体、さらにはそれぞれの信者が有する信仰理解、教会理解を深めていくきっかけになれば幸いである。 参考書: レイモンド･E･ブラウン『旅する教会』－使徒たちが遺した共同体－（日本語版:ドンボスコ、1998 年） 原書:Raymond E. Brown, “The Churches The Apostles Left Behind”, Paulist Press; Trade Paperback edition (April 1, 1984) ＊必須ではありませんが手元にあった方が望ましいです。 **※2024 年 5 月ドンボスコ社 HP で(絶版)となっています。**
9	イエスのたとえ話を読む	新約聖書の福音書には、イエスが人々に語ったとされる「たとえ話」が編集されています。その多くが、イエスが人々に告げた「神の国」をテーマとしています。キリスト教会成立の根源となったイエスの神の国運動の本質を理解したいと考える者にとって、福音書のたとえ話は繰り返し読まれるべき重要テキストです。本講義では、主としてマタイ・ルカ福音書に編集されたたとえ話を分析し、イエスがキリストとして信奉されるに至った理由を考えます。 テキスト：『聖書』（新共同訳、フランシスコ会訳、聖書協会共同訳、岩波訳など、適当な邦訳を講義に持参）
10	天使論	この授業では、キリスト教神学の重要な一部門である天使論について学びます。古代からキリスト教の神学者たちは天使の存在と活動について思索を深めてきました。この授業では、第一に旧約聖書と新約聖書における天使、第二に使徒教父の天使論、第三にギリシア教父とラテン教父の天使論、第四に偽ディオニュシオス・アレオパギテスの『天上位階論』における天使論、第五にトマス・アクイナスの『神学大全』における天使論を取り上げ、天使論が古代から中世にかけて、どのように発展したのかを教理史的観点から学んでいきます。

11	宗教科教育法 24-3	本講義ではカトリック系のミッションスクールにおける「宗教科」の教育を含む宗教教育活動全般を射程に捉えつつ、これからの「宗教科」の教育を包括的に考察し、その具体的方法を検討することを目的とする。そのために、主に次の 3 点を扱う。①カトリック学校における「宗教科」教育の柱として「対話」・「回心」・「キリスト教ヒューマニズム」の概念を検討すること。②カトリック 教育の一つのモデルとして Ignatian Pedagogy をはじめとした現代のイエズス会教育の方法論を検討すること。③現代のカトリック学校において用いられ得る、応用的な方法論と資料等を検討すること。
12	宗教科教育法 24-4「ミッションスクール教員の霊性」	ミッションスクールの宗教科教員は神と生徒をつなぐ架け橋です。しかし、教員自身が神とつながっていないなら、どうやって架け橋になるのでしょうか。神についての知識だけでなく、神とのかかわりを深めていないのなら、伝えることはできません。本講座は宗教科免許の取得を目指す方だけでなく、免許をお持ちの方、他教科担当の方、教会学校リーダーなどに向けて、開かれています。イエス・キリストとの出会いを深めて生きる道（霊性）を、ゲスト講師をお招きして、講義と体験を交えて深めます。主な内容は、①ミッションスクールの教員の霊性、②祈りの個人的次元、③キリスト教の人間観・世界観、④祈りの共同体的次元。
13	秘跡各論　A　入信の秘跡（聖体論）	本講義を二部で行なう。第一部は「新約聖書の証言」と題し、主に新約聖書の聖餐制定記事を取り上げ、聖餐の秘跡のイエス制定の問題を検討する。これは聖書の歴史批判的解釈に立ち入ることになる。が、その詳細をみていく時間的余裕がないので、その結論のみに簡単に触れることにする。第二部は「教理の歴史」と題し、聖餐に関する教理史的展開を概観し、パンとブドウ酒におけるイエス・キリストの現存に対する信仰理解を示す。
14	宗教哲学入門～神の存在証明と神義論～	宗教という超理性的なものを多分に含む事柄に対して、理性を使って哲学的に取り組むとは、一体どういう営みなのでしょうか。本講座では、宗教哲学の中でも神の存在証明（神の存在を理性的・論理的に論証しようとする試み）と神義論（「全知全能の善なる神が存在し、その神が世界をかつて創造し、いまも支配しているというのなら、なぜ世界には悪や苦しみが存在するのか？」という素朴な疑問に対して、納得のいく答えを与え、神を論理的に擁護しようとする試み）の基本的な内容と個々の議論や論証に対する批判を概観しながら、宗教に対する哲学的アプローチの一端を紹介します。